

第8話「がんでも仕事は辞めません。」

さち子「みゆきちゃん、まだ決めたわけじゃないんだけどさ、

私、仕事、辞めるかもしれない。」

みゆき「えっ！？ 辞めるって、どうして！？」

さち子「みゆきちゃん！ しいっ！」

みゆき「やだっ！ それ、めっちゃショック！」

さち子「シッ！」

みゆき「さち子さんがリーダーだから、私たち、パートも、

まとまってるんですよ。

さち子さんだって、リーダーに昇格して、仕事がすごく楽しいって、

言ってたじゃないですか！」

さち子「実は私、がんみたいなの。休んで迷惑かけるのもイヤだし、

がんの治療しながらなんて、働けないもんね…。」

みゆき「え～！？ うちの父親も、がんで、手術や抗がん剤の治療したけど、

会社は辞めないでがんばってましたよ。」

がんの治療をしながら働くなんて、そんなこと、きっと私には無理……。

翌日、検査のために病院に行った私は、1枚のポスターに目が釘づけになった。

『市民セミナー がんの治療と仕事の両立～』

小野「よろしかったらセミナーのパンフレット、お持ちになりませんか？」

それが、がん相談支援センターの相談員、小野さんとの出会いだった。

私は、がん相談支援センターで、セミナーのパンフレットを受け取ると、

思いきって、聞いてみた。

さち子「治療に専念するために、会社を辞めようと思っているのですが」

小野「そういったお気持ちは無理もないですけど。

例えば、がんの治療を終えた後のことも考えてらっしゃいますか？

再就職先を探すとき、正直言って、非常に厳しいんです。

だから私はみなさんに、早まって辞めないでくださいと、

申し上げています。今のお仕事は長いんですか？」

さち子「10年です。仲間にも恵まれて、本当は、辞めたくないんです。

でも、治療しなきゃならないですから…。」

小野さんが、笑顔で言った。

小野「がんの治療は、計画的に進めるものなので、休みのスケジュールも、
職場と相談しやすいと思いますよ。

働き方の工夫でなんとかなることも多いんです。」

さち子「私、そんなこと無理だろうと思っていました。」

小野「仕事って、収入だけじゃなくて、社会とのつながりや、

自分に役割を与えてくれるものでもあるでしょ？

がんにかかったからといってすぐに手放すことはないですよ。」

さち子「こういうことって、聞いてみないと分からないものですね。」

小野「また、悩んだり迷ったりしたら、いつでもがん相談支援センターに
いらしてください。

がんや仕事、生活についても一緒に考えていきましょう。」

病院で仕事のことを相談ができるなんて、思っていなかった。

明日会社に行ったら、みゆきちゃんに、仕事を続けると話さなきゃ。